

東北地理学会 2017 年度第 1 回研究集会

「東北の次世代観光交流」研究グループ 第 1 回研究集会

東北地方における次世代観光交流の行方 ～外国人観光客誘致の観点から～

執筆者：山田浩久（山形大）

参加者：約 70 名

常住人口の減少による経済の低迷を、交流人口の増加によって補おうとする政策は、日本の人口の減少が確認された 2000 年代半ばから強調され始め、観光による地域の活性化が国策として打ち出されるようになった。こうした背景から、近年における日本の観光政策は、外国人旅行者の誘致に重点が置かれている。

そこで、「東北の次世代観光交流」研究グループ（代表者：山田浩久，山形大学）では、東北地方における東日本大震災後の次世代観光交流のあり方を外国人観光客誘致の観点から考えることを目的とするシンポジウムを同研究グループの 2017 年度第 1 回研究集会として企画し、9 月 21 日（木）13:30～17:30、東北学院大学ホーイ記念館において開催した。基調講演の演者には、台湾の玄奘大学から張静文先生、仙台国際空港株式会社から岡崎克彦氏をお迎えした。

観光によって地域を活性化するという事は、その地域の特異性の活用方法を考えるということであり、必ずしも外国人観光客だけをターゲットにする必要はない。また、地域の特異性の活用方法とは、観光地としての魅力を発見・創出するだけではなく、その地域の観光に必要な様々な要件、制約もまた地域の特異性として考慮することでもある。特に、東北地方は、東日本大震災以降、新たな特徴が加わった地域が数多く生まれ、観光地としての評価や観光客の属性も大きく変化している。本シンポジウムは新しい東北地方における新しい観光のあり方を模索するためのものであり、今後の議論が活発化していくためのスタートラインに位置づけられる。当日は、基調講演を主体に活発な議論が交わされ、盛況のうちに幕を閉じた。

当日次第

1. <開会あいさつ> 13:30～13:35

宮原 育子（前東北地理学会会長・宮城学院女子大学）

2. <趣旨説明> 13:35～13:45

山田 浩久（研究グループ代表者・山形大学）

3. <基調講演（通訳付き）> 13:45～15:15

(1). 「台湾における持続的観光成長の策略」

張 静文 先生（台湾玄奘大学 国際餐旅管理學院院長）

(2). 「仙台空港の民営化と東北の観光の可能性」

岡崎克彦 氏（仙台国際空港株式会社 取締役営業推進部長）

<休憩> 15:15～15:30

4. <研究報告> 15:30~16:30

山田 浩久 (山形大学)

岩動志乃夫 (東北学院大学)

初澤 敏生・吉田 樹 (福島大学)

泊業の動向」

宮原 育子 (宮城学院女子大学)

5. <総合討論> 16:30~17:30

司会: 山口 泰史 (東北公益文科大学)

「東北地方における観光資源の空間的関連」

「秋田県大仙市の国際観光へのとりくみ」

「東日本大震災後の福島県磐梯山周辺地域の宿

「東北におけるジオパークの展開」